

テーマ：メディアと言語 — 3.11 報道をめぐる日独英新聞メディアの比較分析 —

1. 研究の概要

<RQ>

日本語で発信されているメディア上の情報は発信されている言語によって内容が異なるのではないかと。

<仮説>

我々は日々、諸外国で発信された情報を原文で収集しているわけではないが発生した事件・事故のニュース報道は伝達される。提供されるニュースの殆どは国際通信社からの情報であり、我々は発信された言語で提供される一次資料に触れる機会は非常に限られている可能性が高い。このように、日本語で発信されているニュースも諸外国で受容された際、内容が変容され、異なった情報が発信されていると考えられる。そこで多様なメディア報道内容を比較・分析していくことは重要であると考えます。

2. 研究の背景・目的

情報メディア上における日本像・日本社会の相対化を試みることに、本研究の目的である。そのための調査対象として、発生から1年後の2012年3月11日に発行された東日本大震災の記事にフォーカスをあて、ドイツ語および英語で受容されたニュース記事を日本語発信の記事内容と比較分析する。その際、そのニュース記事受信側の解釈をより深く理解するため、メディア内容と人々の意識に存在するであろう乖離をインタビュー調査を通して明らかにする。

3. 研究の具体内容（手法）

3.1 資料調査及びテキスト分析調査対象

震災後1年が経過した2012年3月11日前後以降に設定し3.11事故関連の資料を調査し、各新聞社の視点の相違いを明確にする。対象とする資料は以下図1の通りである。

[図 1]

発信言語	新聞社	種類
ドイツ語圏	Frankfurter Allgemeine フランクフルター・アルゲマイン	全国紙
	neues deutschland ノイエスドイチュェラント	地方紙
	Mitteldeutsche Zeitung ミッテルドイチュェンツァイトツング	地方紙
日本語圏	朝日新聞	全国版・東海版
	読売新聞	
	毎日新聞	
英語(アメリカ)圏	The New York Times ザ・ニューヨークタイムズ	全国紙

3.2. インタビュー調査

実際のメディア報道内容と人々の意識はどのように乖離しているのか、その事実を確認する。インタビュー調査は以下図2の学部・大学院生を対象に行う。

[図 2]

インタビュー被験者	人数
ドイツ州ハレ大学 (Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg) で日本語を学ぶ学部・大学院生	5名(女子3名、男子2名)
SFCでドイツ語を履修する学部・大学院生	5名(女子3名、男子2名)
三重県三重大学の学部・大学院生	5名(女子3名、男子2名)

4. これまでの活動

- ・ 独、英新聞の記事調査
(2012年3月、2012年8月、2013年3月～8月)
- ・ 学部3年時の夏季・春季休業期間及び学部4年時の夏季休業期間ドイツでフィールドワーク。
- ・ 学部4年時春学期中 SFC 生にインタビュー調査。
- ・ 学部4年時の夏季休業期間三重県でインタビュー調査。

5. これまでの研究活動内容

3.11 事故に関する英語 (アメリカ) とドイツ語の報道の内容の違い、ドイツ語の全国紙と地方紙の報道内容の違いを確認した。またドイツ人学生と日本人学生を対象としたエネルギー問題に関するインタビュー調査を通して報道では得ることができない貴重な意見を聞くことができた。

6. 今後の計画

日本語新聞調査・SFC 学生インタビュー・分析・卒業論文執筆

7. 参考文献

朝日新聞社『報道写真全記録 2011.3.11-4.11 東日本大震災』(2011)

河北新報社『再び立ち上がる —河北新報社、東日本大震災の記録』(2012)

共同通信社『いま原発で何が起きているのか—原発震災の100日』

月刊誌『COURRIER Japon』(クーレジャポン) (2011年5月号、2011年6月号、2011年7月号)

クラウスクリッペンドルフ (著)、三上俊治 (翻訳)、橋元良明 (翻訳)、椎野信雄 (翻訳)『メッセージ分析の技法—「内容分析」への招待』(1989)

ノーム・チョムスキー (著)、鈴木主税 (翻訳)『メディア・コントロール —正義なき民主主義と国際社会』

ハルトムート・ケルブレ (著) 永岑三千輝 (監訳)『ヨーロッパ社会史—1945年から今まで—(2007)